

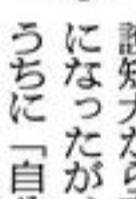
# 青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>



テレビに出演したり本を出版したり、幅広く活躍する福永



## 多摩高校 9

虎の門病院の医師小林蓉子（38、94年卒）は今回の連載で紹介した福岡ソフトバンクホークス執行役員の小林至の妹。看護短大から東大に編入、看護師になつたが、がん患者に接するうちに「自分の手で何とかしたい」と岡山大医学部に入り直し

た。陸上部の長距離選手だった高校時代を「やる時はやるといふ集中力、オン・オフの切り替えが身についた」と振り返る。

精密機器会社経営者から座間市長に転じ、2期目となる遠藤

多摩高校の卒業生たちは「新天地」でも輝き続ける。  
お灸教室が人気でテレビにも出演する鍼灸師の福永裕子（35、1997年卒）は、病院の臨床検査技師からの転身。高校では陸上部で、すねの痛みを鍼灸院

独立行政法人・製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター勤務の姉幸代（37、95年卒）も多摩高卒だ。

で治療したことから、興味を持った。「合宿で教室に布団を敷いて泊まり、銭湯に行つたのが楽しかった」と思い出を語る。

「月に一度は仲間と皇居の周りを走っている」という小林

# 医師に作家に市長に…新天地開拓

三紀夫（56、76年卒）は合唱部だった。「県内でも珍しかった混声合唱が、1学年上に男子部員がおらず危機に。同じクラスから男子4人が入つた」。今も頼まれば、講演会や集会など後に演歌からフリオ・イグレシアスまで歌う。

週刊誌記者からノンフィクション作家となり、「倭人伝、古事記の正体」など歴史物でも知られる足立倫行（66、63～64年度在籍）。3年生になる直前、長崎の高校に転校したが、受験で上京した時、多摩高の卒業証書はな

い」こと、雄大な多摩川のほとりで「自由と責任」を学んだ多摩高の卒業生たち。彼らはいまも全国各地、各界で活躍を続ける。



で臨んだ剣道部の高校総体県予選では、強豪の相模工大付（現・湘南工科大付）に食い下がつた。「国語の鷲尾靖先生（故人）の授業は大学並みの水準。朗読は芝居をしているようで鳥肌が立ち、それで本を読むよう取り上げます。

多摩高柔道部創設。「部長が白帯では格好悪いので大急ぎで黒帯を取つた」と話す足立



◇

多摩高は今回で終わります。

村山恵二（長野県立松本深志高校卒）が担当し、敬称略で紹介しました。青春スクロールはしばらく休載し、次回は1897年

年に初の県立中学校（旧制）として設置された希望ヶ丘高校を

かつたが、忘れられない」と言つた。先生がいなければ、書くことが好きにならなかつたと思う」と語る。

かつたが、忘れない」と言つた。64年の東京五輪の際、自衛隊機が空に描いた五つの輪が校庭から見えた。「多摩川を越えれば文化の中心の東京はすぐだ、ちょっと手を伸ばせば届くんだと思えた」

。

◎ 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。